

ご挨拶

優れた作品は、世に出す責任があります
優れた才能を持っている人は、世に出る義務があります
夢を目的に変えて一人歩きする為の書籍でもあります

十代には、十代、二十代には二十代でなければ書けない作品があり
また、人生の経験を積み重ねた、五十代、六十代を迎えないと書けない作品もあります
流した涙の粒だけ作品は生まれ、希望や夢、時には、失望の数だけ作品は生まれます
等身大の自分の目線で、素材を探し、創作に励んでください。
著書の目的は「一人歩きを始める為の書籍です」

森田 一夫

芸歴： 榊芸能社、富士プロダクション、渡辺プロダクションを経て独立。

最近の出来事：

シルクロード新人賞受賞、シルクロード作曲賞受賞、歌謡プロムナード作曲賞受賞、演歌ジャーナル作曲賞受賞、(社)日本作曲家協会作曲コンペ準グランプリ受賞、(社)日本作詞家協会 日本作詩大賞新人賞入選、その他授賞歴多数。

jazzピアニスト、ドラム&パーカッション奏者、ブレスキーボード奏者。

関連サイト紹介

投稿サイト 新人作詞家&作曲家の登竜門 同人誌 夢追い人
<http://star.ap.teacup.com/yumeoibito/>

MUSIC RECORD
<http://sgal.servemp3.com/musix/>

プロを目指す作詞講座～初級基本編～歌謡曲&ポップス

目次

第一章	はじめに
第二章	詩と詞の違い
第三章	タイトル
第四章	字脚
第五章	素材(モチーフ)
第六章	構成
第七章	歌手の気持ちに成っているか
第八章	作曲家の気持ちに成っているか
第九章	時代のニーズに沿っているか
第十章	作品のチェック方法
第十一章	個性と自己満足の違い
第十二章	まとめ

第一章 はじめに

作詞は基本的に誰でも創作できます

何故ならば、日常的に言葉を話し、日本語を何十年と使っているからでね
歌詞という事を考えると、幾つかの制約はありますが、<C>創作と言う範囲では自由です
日常に於いて直接言えない言葉でも、歌詞にしたり、歌にすると思いを伝えられます
背伸びをせずに、<C>等身大の自分の目線で創作する事を心掛けましょう

創作に於いて注意しなくてはならない事は、<C>作り話に誰も感動しないと云う事です
かと言って事実をそのまま歌詞にするとドロドロしたものになりますね
素材を歌詞として、デフォルメする必要もあります
実在する素材&テーマとして70%、デフォルメ30%が目安でしょうか

感動する、共感する詩とは、普段の営みの中で<C>「これは歌になる」と言う
テーマや素材を見つける事です
素材を見つける目を養う事が作詞の勉強よりも重要かもしれません

十代には十代にしか書けない作品があり
二十代には二十代にしか書けない作品があり
三十代、四十代、五十代と経験を重ねないと書けない作品もあり
人生を振り返って、初めて書ける作品もあります、

自分の人生の記憶の中に、夢や希望の数だけ、流した涙の粒だけ、
テーマや素材は自分自身の中にもあります
伝えたい思い、伝えたい喜び悲しみ、心に残っている消えない破片
守りたい大切な人、愛、会い、合い、逢い、遭い、相、哀、曖、、、
家の中で机やパソコンに向かって創作する前に
積極的に素材やテーマを探る為に、行動範囲を広く持ち
人間と云う素材を観察する目を養いましょう
そして、時代の流れを肌で感じ取る努力をしましょう

作詞講座1 統合ファイル

第二章 詩と詞の違い

一般的にですが、詩は自由詩であり、一切の制約も制限もありません
字数や構成、テーマや素材など、創作に関する枠が無いのです
心で感じたままの気持ち、心に残る情景や風景、心理描写など
素直に表現する事ですね

私は創作活動を繰り返す途中で、時々子供の詩を愛読します
歌詞を書き続けると、<C>難しい言い回しや、難しい言葉、漢字を使用しがちになり
それが作品のレベルアップと勘違いするからです

子供の詩は、素直で飾りがなく、率直に感じた心を映し出しますので
私を初心に戻してくれます。

詞は歌詞であり、作曲され編曲され歌唱されますので、制約制限があります
商用音楽では、<C>著作権上の問題で、一作品五分以内と云う制約があり
前奏、間奏、エンディングなどの部分を差し引くと、一コーラス一分以内となります
制約に伴い、字脚、設定、構成、起承転結などの制約を受けます

歌詞は言葉を凝縮し、更に、<C>歌詞と歌詞の間の行間（歌詞の無い行間部分）に
歌手や聴衆が何かを感じ取る要素が必要です
業界では「行間を読む」と言います
この歌詞で書かれていない部分が、作品の深みや奥行きになるのですね

又、詩は目で読みますが、詞は歌声を介して耳で聞きます
この目と耳の伝え方の違いが、詩と詞の大きな違いではないでしょうか

詩が口語体、文語体など自由に使って創作するのに対し
詞は口語体が軸となります
何故ならば <C>文語体では日記風、作文風、朗読風の文章風になってしまうからです

業界では詞は台詞（セリフである、つまり台詞とは口語体である」と理解されています
詩は何度でも読み返す事ができますし、時には途中から戻って読み直す事もできます
時間軸が止まっているのですね
詞は歌声で伝わりますから、時間軸は常に進んでいます
瞬間瞬間で歌詞の内容が伝わらなければなりません
例外として シンガーソングライターの作品には、枠に嵌らない作品も有ります

先ずは、詩と詞の違いに就いて、しっかりと自分の中で区別しましょう

作詞家協会や一部の業界では詩と詞の表示区別をせずに「詩」に統一している場合も有ります
作曲や評論の現場では「詩」と「詞」の表示区別は、はっきりとしています。

第三章 タイトル

タイトルに著作権はありません、既成のヒット作品と同じタイトルでも良いと言う事です
しかし「銀座の恋の物語」「黒い花びら」「りんご追分」「哀愁晩歌」「佐渡情話」「渚のシンドバット」
「いとしのエリー」など、あげれば切りが無い過去のヒット作品と同じタイトルでは
新人としての素養を疑われてしまいますね

同じタイトルでもリメイクして「銀座の夢の物語」「りんごの白い花」「哀愁夜」
「佐渡の恋情話」「渚のマーメイド」「いとしのエリーゼ」と変える事も出来ます
寄稿作品の中にはタイトルが無く「無題」という作品もありますが
タイトルの無い作品は、如何なるコンテストでも審査対象外ですし、売り込みにも値しません

私は始めにタイトルから思考します
何故ならば 何を書きたいのか 何を訴求したいのか 何を素材にしたいのか
自分の中に素材と書きたいテーマをしっかりと取り込んで、創作に入るからです
創作の意図と構図がハッキリしていないと歌詞がぼやけてしまいますね
写真で言うと撮りたい素材に焦点を当てて撮るか
ピンボケの写真を撮るかの違いがあります

行き当たりばったりで書き上げ、後から考えたタイトルに重みはありません
最初に創作したタイトルを後から推敲する場合はありますし
プロデューサー、歌手事務所の意見で変わる事もあります
著名な作詞家はオファーがあると、歌手のイメージに合うタイトルだけを書き上げ
その中から選んでもらい、歌詞の中身の創作に入るそうです

タイトルは商品名と同じです コンビニを例に挙げれば
多くのカップラーメンが陳列されている中で
商品名から注意を惹き、想像させ、興味を持たせ、
欲しいと言う欲望を顧客に与える重要な部分です
また、売り上げに左右する事であり、ネーミングに全力を捧げます
作詞のタイトルも作詞の中身と同様に重要だと言う事を認識しましょう

ネーミングやキャッチコピーは、コピーライターと言う作家が行いますが